

仲村ひであき 県議会ニュース

vol.1　2016年 春　【発行】千葉県議会議員 仲村秀明

議会質問での要望が実現

児童養護施設退所児への支援が充実

児童養護施設退所児童等アフターケア事業が今年度新たに予算化され、未来ある若者の将来の道を開く自立支援事業が更に拡充する事になりました。



児童養護施設退所児童等アフターケア事業とは、児童福祉や就業支援に精通したスタッフを配置して相談支援や生活支援、就業支援などを行うことで自立を支援すると共に、退所した者同士が集まって意見交換や情報交換、情報発信などを行えるような場を提供するものです。

児童虐待増加に伴い児童養護施設の役割が大きくなると共に、施設退所児に対する自立支援の課題が浮き彫りになってきました。

施設を退所する児童の多くは、経済的にも精神的にも保護者の援助を受けられず、生活上での困り事が有っても最も頼れるはずの家族というセーフティネットがない為、公的なサービスにつながらず悪循環に陥りやすいという実態が有ります。そうした観点から昨年12月定例会において、退所児が安定した自立生活を開始できるような継続的支援体制の必要性を県に対して訴え、事業の導入を求めました。

皆様の声が実現
（新年度予算から）

県民相談等で頂いた皆様の声を中心に様々な政策要望をしています。
新年度予算にもそうした要望が数多く反映されています。
成果のうちの主なものを御報告します。

子育て応援！
チーパス事業が全国的連携



優待カード「チーパス」を提示することで、子育て家庭が協賛企業の店舗等で各種サービスを受けられる子育て支援事業を実施。今年度からは、他県が実施している同様のサービスも受けられるよう、全国的に連携する取り組みに参加します。
対象は県内の妊婦、又は中学生までの子供がいる家庭。

小児救急電話 相談体制の充実



夜間における子どもの急な病気に対して相談できる電話相談事業（通称#8000）が、これまで午後10時までであった相談時間を翌朝6時まで延長する事になりました。
これにより空白時間帯であった深夜における相談体制の充実が図られます。

周産期医療 体制の充実



緊急・ハイリスクな分娩等、産科と新生児科などを組み合わせた、母子への高度な周産期医療を提供する体制の安定的な確保・充実を図る為、周産期母子医療センターに対して運営費及び施設設備費の助成を行います。

災害派遣精神医療チーム（DPAT）体制整備

精神科医や看護師等の専門的な精神医療チームを派遣し、災害によって生じた精神的なストレスを抱える被災者や、被災地で支援活動をされる方等に対して心のケアを行うための体制が整備されます。



いじめ防止対策の推進



いじめの未然防止、早期発見、解決に向け、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを増員する等、児童生徒が安心して学校生活を送る事ができる環境づくりを進めます。
スクールカウンセラーの配置拡充（小学校70人→105人）、スクールソーシャルワーカーの配置拡充（5人→8人）

中小企業の更なる育成



県内中小企業の経営基盤の安定に必要な資金を円滑に提供するため、金融機関等と協力して低利融資（制度融資）を行います。
中小企業の積極的な設備投資等を支援する為に、今年度も過去最大の融資枠を継続します。

平成28年2月定例会　予算委員会での質問から

●脳脊髄液減少症について ●野鳥観察舎について ●旧血清研究所跡地内にある赤レンガ倉庫について
●高齢者肺炎球菌ワクチン接種について ●B型肝炎の予防接種について ●医師不足病院医師派遣事業について ●児童相談所について
●電話de詐欺対策について ●消費者相談について ●県立施設の耐震化について ●洪水・高潮浸水想定区域図作成事業について
●東京湾ツーリズム旅客船運航実証実験事業について ●「世界に飛び出せちばの農林水産物」輸出促進事業について

詳しくは千葉県議会ホームページでご覧いただけます

仲村 高齢者肺炎球菌ワクチン接種をうっかり忘れてしまい定期接種が受けられないという事を防ぐ為に、現在はざま年齢の助成を行っておらず再通知も行っていない自治体に対し、接種希望者が機会を逃さない取り組みを行うよう県として働きかけるべきと考えるがどうか。

保健医療担当部長 今回の調査結果を市町村に情報提供することなどにより、接種希望者が接種機会を逃すことのないよう、環境の整備を進めていきたいと考えます。

※今回の調査結果…本年2月の全市町村に対する高齢者肺炎球菌ワクチン接種の実施状況調査。平成27年度、現在独自助成を行っておらず再通知も行っていない市町村は18市町。

仲村 4月1日に始まる電力自由化に向け、関連した詐欺や悪徳商法などに県民が遭うおそれがあると思われるが、県では市町村や県民向けの説明会等を開催しているのか。

環境生活部 県では4月1日に始まる電力自由化に向け、一般県民及び市町村の消費者行政担当職員等を対象とした説明会を2月10日に消費者センターで開催し、電力自由化の仕組みや購入先を選ぶ際の注意事項等について説明したところ。

仲村 今後説明会を更に開催する予定は。

環境生活部 小売電気事業者との契約トラブルや悪質事業者による便乗商法などについて、県民からの相談に適切に対応できるよう、県及び市町村の消費生活相談員を対象とした研修を年度内に実施する。
更に実際の契約トラブル事例や相談事例等を踏まえ、一般県民向けの説明会を4月以降に開催する。

主な質問

平成27年12月定例会 一般質問から（通告要旨）

詳しくは千葉県議会ホームページでご覧いただけます

●医療・福祉問題について ●教育問題について ●水産問題について ●河川整備について ●道路問題について

東葛南部地域に療養介護・医療型障害児入所施設を!

県は入所施設の地域的な偏りを認識している一方で、看護師確保等の課題により開設当初の厳しい経営状況が予想される事を配慮し、市町村や関係団体の意見を聞きながら必要性について検討するとの答弁がありました。

聴覚障害者支援の充実を!

手話通訳者並びに要約筆記者の更なる養成を訴えました。
県は手話通訳者・要約筆記者共に、本年度から平成29年度まで新たに120人養成し、今後も引き続き聴覚障害のある方のニーズに応えられるよう、計画的に養成に取り組むとの答弁がありました。

認知症対策を!

認知症移行前の段階での早期発見や適切な対応が重要なことから、軽度認知障害対策を進めるべきと訴えました。軽度認知障害の方に対しては、運動や認知トレーニングなどが認知症予防にもつながるとの報告もある事から、今後の取り組みについて検討していくとの答弁がありました。

※軽度認知障害（MCI）とは、健常者と認知症の方の中間の段階、いわゆるグレーゾーンに当たる症状ですが、MCIの原因となる原疾患をそのまま放置すると認知機能の低下が続き、一定の割合で認知症へとステージが進行するとも言われています。県内には約21万人の軽度認知障害の方がいると推計されています。

学校での暴力行為防止体制の充実を!

千葉県の平成26年度における公立小・中学校の暴力行為の発生件数は、小学校が1,062件と前年度より274件増加しているため、防止策として教育相談体制の充実を訴えました。スクールカウンセラーを全小学校に配置できるよう、また、スクールソーシャルワーカーも現在の5名から更なる増加を要望しました。

漁業被害対策の充実を!

東京湾でとれるアサリ等、貝類に大きな被害を与えるとされている青潮の対策について取り上げました。青潮は、アサリ漁を営む漁師には死活問題となっています。県からは漁業者が実施する地盤のかさ上げに対し支援等を行ってきたとの答弁があり、私からは漁業者が新たに取り組む青潮被害の軽減対策への更なる支援を要望しました。

洪水対策を早急に!

飯山満川の河川整備の進捗状況と今後の取り組みを確認しました。これまで区域内700メートル区間のうち、370メートルの護岸整備及び1号調節池の整備が完了しており、本年度は45メートルの区間において護岸工事を実施、あわせて2号調節池の遮水工事のほうに着手する予定との答弁がありました。

国道14号の船橋市宮本地先の交差点改良を!

横断歩道橋と駅の一体化及びエレベーターの設置によるさらなるバリアフリー化を含めた交差点の改良を求めました。
現在、併設されるエレベーターの維持管理などにかかる協議を地元船橋市と進めているとの答弁があり、私からは市との協議を早急に進めていただき、横断歩道橋の移設に取り組むよう強く要望しました。

狭隘な歩道の拡幅を!

県道夏見小室線、船橋市北本町地先の歩道拡幅整備の進捗状況を確認しました。これまで延べ208メートルの歩道整備を完了しており、今年度は船橋中学校側の歩道工事を実施するとともに残る用地取得を進めるとの答弁があり、用地取得ができた時点で順次歩道拡幅をしていただくよう要望しました。



プロフィール

仲村 秀明

昭和44年7月2日生まれ　千葉県出身

千葉県議会議員（船橋市選出、1期）。公明党千葉県議会議員団所属。
農林水産常任委員、千葉県障害のある人の相談に関する調整委員。船橋市東船橋在住。
仲村ひであきの議会活動は、ブログ、フェイスブック、ツイッターでも発信しています

県政についてのご意見をお寄せ下さい

【FAX】047-409-0265
【メールアドレス】info@nakamura.chiba.jp
【HP】http://nakamura.chiba.jp